

# 第5回クールジャパン

## 人材育成検討会資料/日本工学院

本校の受け入れ状況(2017年度)

日本工学院専門学校(蒲田校)

総定員5,240名(内留学生 9.0%)

マンガ・アニメーション科

1年生定員200名(内留学生 35.8%)

2年生定員200名(内留学生 39.6%)

声優・演劇科

1年生定員160名(内留学生 6.1%)

2年生定員160名(内留学生 3.8%)



# 日本工学院の現場において

- u 企業側の外国人人材需要増加 特にIT・工業系が中心  
好景気に加えあらゆる業界において外国人を日本人同様に戦力として期待している
- u アニメ希望学生などは、クールジャパンの反映から日本の企業で仕事に就きたいと希望している  
卒業後、 )特定活動をしてでも職を求める学生もいる  
)特定活動とは一定期間(180日間)就職活動するためのビザ
- u 一人でも多くの学生に対して就労支援を施すため、一般カリキュラム以外に社会人教育も強化している  
例) 日本語ビジネスマナー講座/留学生のためのキャリアガイダンス /日本語能力検定講座/企業への外国人採用ノウハウ提供 など

# 日本工学院クリエイティブ分野学生 卒業後進路の問題点

- u **ゲーム業界**: 受け入れ態勢があり実績もある  
デザイン職として認められ、就労ビザが取得できる
- u **アニメーション業界**: ビザ取得が業種・職種により困難  
作画/仕上げは、給与が歩合制かつベース給が低い  
背景動画/編集などは、給料制ではあるが低賃金  
採用経験上大手企業には紹介し易いが、中小企業は難しい
- u **マンガ/声優/俳優業界**: ビザ取得が特に困難  
就労ビザのカテゴリーがない(デビュー系)  
アニメの吹き替えを含め、声優の仕事に就けない  
現状は帰国するしかない  
業界の要望に十分対応できる技能・スキルレベルまで教育し、高い意欲と能力を備える留学生の多くが制度のため日本就職をあきらめ、やむなく帰国をしているのが実態である

# 有効な人材活用と制度改正の必要性

- 各教育機関においては、受入れから卒業まで十分に指導を行っているが、就労だけが困難な状況である

特に本校では、担任制度により徹底した出席管理及び生活指導を行っている為、不法就労などは一切無く、制度が緩和された場合でもその他への悪影響は無いと考えている

- 主な解決案

就業ビザ取得条件の緩和

就業条件の改善(企業側の努力も必要)